

## 令和4年度 学カスタンダード指導計画・報告書

教科：(地理歴史)科目：(日本史B) 対象：(第3学年A組～F組)

科目担当者：(稲井 ⑩)

教科・科目の 指導目標	中学校で学んだ社会科の復習を本科目の中で随時取り入れ、基礎学力の定着を図る。その上で、日本史を通じて現代の社会情勢への興味関心や知識・理解を深め、将来に向けた判断力をもった人間を育てる。
----------------	---

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	歴史分野における基礎的な知識が圧倒的に不足していることが伺える。史資料の読み取りができていない、または読み取った情報を適切に表現することができない点が課題である。自分の意見を伝えることが出来ず、常に受け身の姿勢が見受けられる。また時事問題に対する当事者意識も希薄である。	新聞記事を活用した時事問題を積極的に行い、新聞を読む・時勢に興味関心を沸かせる。授業では積極的にICTを活用し、多角的な視点で歴史を学ぶだけでなく、アンケート機能などを用いて自身の意見を発信する練習を行う。用語の詰め込みではなく、将来の判断力を養えるような知識の獲得を目指し、歴史的項目の論述ができるように指導する。	ICT機器を積極的活用し、多角的(視覚聴覚等)に歴史に触れる機会をもつ。将来に向けた判断力を獲得するために、自分の意見を書く、情報をまとめる、歴史事項を評価するといった記述する項目を多く設ける。暗記だけではなく「なぜそうなったのか」という歴史的な疑問を持てるような授業や生徒が主体的に学ぶ場としての学び合いの時間を確保する。

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			